



## 【宮城県】 東北大学病院

### 東北大学病院について

東北大学病院は、宮城県仙台市、仙台駅の北西約3kmに位置しています。最寄りの地下鉄駅「北四番丁」駅から徒歩で10分ほどになります。この「北四番丁」は藩政時代からの通りの名称ですが、市内各地に歴史的町名が数多く残っており、伊達政宗の築いた城下町の名残りを随所で感じることができます。人口100万の都市ですが、緑に囲まれた杜の都です。大学病院の近くには清流の広瀬川が流れており、すぐ郊外には美しい住宅地が広がっています。夏は涼しく、冬の積雪は少なく、一年を通して過ごしやすい環境です。



### 東北大学泌尿器科の特徴

東北大学医学部泌尿器科は1959年、東北大学第一外科出身で、当時、福島県立医科大学第一外科教授であった宍戸仙太郎教授を初代教授として、福島県立医科大学第一外科と東北大学第一外科から移行した10名余りで発足した外科由来の泌尿器科です。初代宍戸教授は、神経因性膀胱やアンドロロジーを専門とし、第二代折笠精一教授は、尿路結石の内視鏡手術や体外衝撃波治療を確立、第三代荒井陽一教授は、EBMに基づいた泌尿器悪性腫瘍の機能温存・再建治療と腹腔鏡やロボット支援下手術などによる低侵襲手術の普及に取り組み、早期前立腺癌治療のQOL研究も行ってきました。2018年12月より伊藤明宏教授となり、基礎研究では糖鎖生物学、臨床では腹腔鏡やロボット支援下手術の適応をさらに拡大させながら泌尿器悪性腫瘍のアウトカム向上を目指した最先端の治療・研究を行っています。副腎外科は国内でも多くの手術数であり、原発性アルドステロン症の手術は世界トップクラスにあります。また近年増加傾向にある精巣腫瘍の症例数も国内施設では多くの患者を扱っており精巣がんサバイバーのQOL研究にも積極的に取り組んでいます。昨年度の手術総数466件のうち、ロボット支援手術25%、腹腔鏡手術22%、開

放性7%、尿路内視鏡41%、他6%と、低侵襲手術を積極的に行っています。

### 東北大学泌尿器科専門研修プログラム

東北大学病院を中心とした診療拠点病院と地域医療を担う地方中核病院で研修を行います。診療拠点病院（八戸市立市民病院、山形県立中央病院、気仙沼市立病院、大崎市民病院、石巻赤十字病院、東北労災病院、JCHO仙台病院、仙台医療センター、仙台市立病院、仙台赤十字病院、宮城県立こども病院、宮城県立がんセンター、東北公済病院、いわき市医療センター、白河厚生総合病院）、地域中核病院（泉中央病院、仙塩利府病院）、地域医療を担う病院（JR東日本仙台病院、栗原中央病院、仙石病院、多賀城腎泌尿器科クリニック、坂総合病院、仙台徳洲会病院）などでの研修となります。

専門研修は東北大学病院で開始することを原則としていますが、初年度の研修期間中に、宮城県立こども病院で小児泌尿器研修を行います。その後、診療拠点病院での研修となりますが、地域により医療や患者の特色に違いがあるので、1~2施設を移動して研修を行います。研修終了後は、泌尿器科臨床を継続する臨床修練コース、大学院に進学する大学院進学コースを選択することが可能です。

東北大学と関連施設では、年2回の東北EBMフォーラム、泌尿器科CPC、年1回の東北泌尿器科手術手技研究会を行っています。東北EBMフォーラムは、関連病院全体で臨床データを集積し、新たなエビデンスを発信することを目標とした共同研究グループです。泌尿器科CPCでは、専攻医らが提示した問題症例について病理学的に掘り下げたディスカッションを行うことで、病理診断の理解だけでなく、病理医との連携を深めることができる貴重な機会です。東北泌尿器科手術手技研究会では、手術に関連した症例や手術成績の報告、手術手技における工夫や問題点を発表し、活発なディスカッションを行います。このように臨床研究、手術、泌尿器病理に関する情報を共有することで、専攻医だけでなくプログラム全体でのレベルアップに努めています。

### おわりに

東北大学病院は、地方とは言っても中心都市にありますので、県内に限らず周辺他県からも多数の患者が紹介されてきます。他診療科においても同様ですので、複数科で対応が必要な患者や本院でしか対応できないような患者など、多くのことが経験できることと思います。自然に恵まれているだけでなく、東京まで新幹線で90分という好立地の都市にあります。泌尿器科を希望するなら、ぜひ、東北大学で目指してはいかがでしょうか。